山城南部支援地域
京都府立南山城養護学校

相談支援の実際

児童生徒、保護者、担任等からの
悩み 困りごと 気づきの訴えや相談事

全ての学校にはコーディネーターがいます。まず声をかけて！

学校の相談機能の充実がポイント

学校コーディネーター
- ○エピソードを含んだ丁寧な聞き取り
- ○相談等の内容から主訴の整理

校内委員会
- ○指導改善　○配慮事項の整理
- ○教職員間の意思統一
- ○保護者支援等
- ○アセスメント票の準備　等

幼稚園等
小・中学校
高等学校

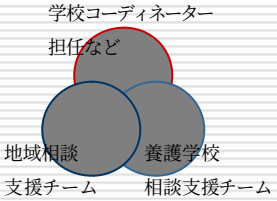
京都府立南山城養護学校（事務局）

相談のポイントは何か？（事前検討）

・相談票・アセスメント票をもとにケース検討

○検討事項に基づいて一定期間、当該校で実践し、継続支援をするケース

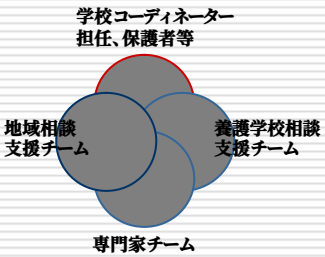
○専門家チーム（医師等）を伴って学校に巡回相談をするケース



学校コーディネーター・校内委員会の活動のスキルアップも大切な支援です

医師等と巡回教育相談の実施

【巡回相談の主な内容】
①授業視察
②アセスメント票でケース会議
③保護者相談
④事後のまとめの会議
⑤その他のケース会議
（オブザーバー参加有り）

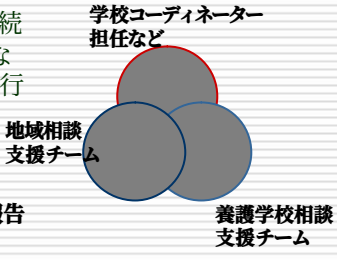


アセスメントの重要性

アセスメントの辞書的意味は「評価・査定」ですが、ここでいう評価は、様々な環境要因をできるだけ整理し、問題解決につなぐための手続きと言って良いでしょう。問題行動がどんなときに起きるのか、それによってどれくらい困るかと言ったことだけではなく、どのような時には起きないのか、いつ頃から起き出したのか（いつ頃まではなかったか）といった、問題がない場合にこそ解決のヒントが隠されていることを忘れてはなりません。また、検査等の客観データを活用することや診断に関して医療と連携することも非常に重要となります。しかし、相談の経過の中では保護者が検査や診断に否定的な場合もあります。その場合でも、診断や障害の断定をしてはならないことは当然です。たとえば、アセスメントの過程で自己肯定感が低く、それを助長するような働きかけや相互作用があると分かったならば、その改善策を検討する。二次的不適応状態と判断できる事象があるなら、それを引き起こす要因を特定する等、現状のアセスメントの中から、その子供の状態像を把握して、障害仮説に基づいた検討を行い、支援の方策を絞り込んでいくといったことが重要となってきます。

巡回支援の後も点検・フォローを

・巡回教育相談以降、継続して相談支援が必要なケースの検討・分析を行う



○相談校より事後の取組の報告
○継続支援の内容の整理

相談支援の実績　（平成18年度　4月-1月）

特別支援教育体制推進事業の内容（4月～1月）

相談支援校（園）数	29校（園）
相談支援ケース	49ケース
相談支援のべ件数	128 件
1回のみの相談	15ケース
複数回数の相談	34ケース
巡回相談支援実施件数	32ケース
発達（心理）検査の実施	16ケース
地域相談支援チームと合同で実施	30ケース

多様な支援をすすめてセンター的役割を発揮
養護学校・地域等連携推進事業）　4月～1月

事業内容		件　数	備　　考
研究支援	小学校	7	自閉症教育・理解・支援をテーマ 8/21　公開講座①教職員60名 10/21　公開講座② 保護者90名を含む300名
	中学校	11	
	保幼高他	32	
来校相談		42	就学相談は別途（就学相談部）
指導連携		48	福祉事業所を中心とした連携
主治医訪問		41	医療を中心とした連携
ケース会議		小学部7　中学部4　高等部8（医療・福祉・行政等）	

コーディネーターの役割

特別支援教育コーディネーターの役割というと一般的に

・関係者や関係諸機関との連絡調整
・外部相談、保護者相談に対する学校の窓口
・担任への支援
・校内委員会での推進役

等ですが、これらに共通するキーワードは「つなぐ」です。

どういうことかというと、たとえば、一人の子供の視点で考えてみたとき、その子供の周りには家庭・学校・地域生活といった環境相互の横のつながりがあり、その環境の中ですごした時間の経緯といった縦のつながりがあると考えることができます。これらの環境の横断的、縦断的視点をあわせて見つめると、その中に子供を支援するためのリソース（資源）が含まれていることがわかります。ここで言うリソースは、人の場合もありますが、建物や組織、社会的システムそして、情報等すべてを含んだ概念です。それらは、ある部分はつながっているが、ある部分は無関係に存在しています。しかし、良かれ悪しかれ子供は自分のおかれているリソースの中で生きて行く存在であり、それらを有効に活用することが支援であるとも言えます。

たとえば、関係者会議を招集して関係者同士をつなぐことや、アセスメントを通して現状分析し解決にむけての一連の筋道をつなぐこと。時には専門性を発揮して情報を関係者につなぐこと等、コーディネーターは様々なリソースを見いだし、リソース同士を結びつけて、最大限に機能させることがコーディネーターの役割ということになるのです。

山城南部支援地域での相談支援の具体的事例

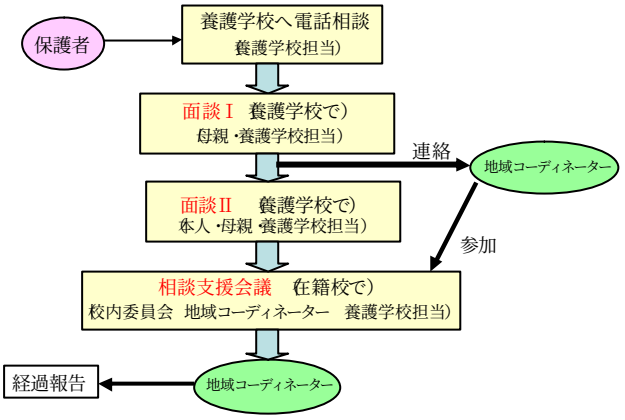
山城南部支援地域（南山城養護学校）では、医者・福祉等の専門家チームと共に、養護学校・小・中学校・通級指導教室の先生が一緒になって、相談支援を実施しています。

次のページから、相談支援を実施した中から、特徴的なケース（事例）を紹介し、相談を受ける際に参考にしていただきたいと思います。

保護者相談経由、相談支援会議コーディネート型」

校　種	中学校	対象児童・生徒等	2年生男子
相談経路	保護者より電話相談	受付時診断	PDD 診断あり
学校主訴	1. 登校しぶり 2. 対人関係不適応		
保護者主訴	・登校しぶり ・特定のクラスメイトとのトラブル ・母親にベタベタくっつくなど、年齢相応の対応をどうすればよいか		
内容と背景	・特定のクラスメイトからの暴言で登校しぶり状態が起こっている。 ・学校側は生徒指導の範囲内で対応しているが、改善されていない。 ・対人関係を中心に本人に大きな困り感がある。		

①保護者相談で組織の設置（相談支援会議）

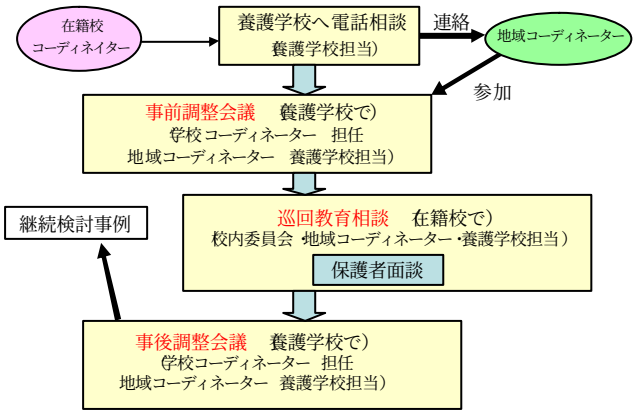


電話相談で、保護者が在籍校への連絡を望まなかった。面談においても学校との連携の必要性は理解しつつも、家庭や本人の対応で改善できないかという意向を持たれていた。その後、本人面談を含んで2回目の面談を行い、学校側との連携を承諾、在籍校に経緯を連絡し、相談支援会議を行い、現状の確認と今後の対応について検討した。現在も相談支援会議を継続している。

在籍校経由、巡回教育相談型（面談有）」

校　種	小学校	対象児童・生徒等	3年生（男）
相談経路	在籍校コーディネーターより連絡	受付時診断	PDD 診断
学校主訴	1. 教室への入室困難 2. 学習不適応		
保護者主訴	・教室で授業を受けさせたい。 ・学習の遅れを取り戻したい。 ・家庭内で妹と喧嘩が絶えない。		
内容と背景	・教室への入室困難により主に障害児学級にて課題学習を行っているが、本人の状態で不規則 ・友達と一緒に遊ぶこともあるが、些細な行き違いからトラブルが絶えない。		

②学校コーディネーターの気づきを相談に

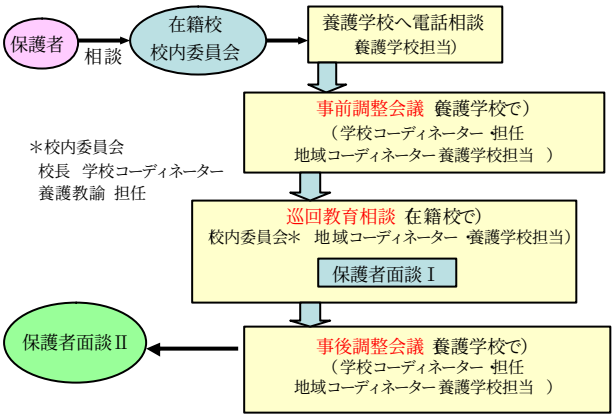


在籍校コーディネーターから本校に打診があり、アセスメント票を作成し本校で事前調整会議を実施することとした。地域コーディネーターに連絡し、事前調整会議への出席を要請。アセスメント票を元に事例を検討し、巡回教育相談を実施し、保護者の希望により面談を行った。その後、在籍校コーディネーター、担任、地域コーディネーター、本校担当で事後調整会議を実施した。なお、若干の改善も見られたが、教室内へ入れない状況は続いているので、在籍校校内委員会で継続的に対応する旨確認した。

保護者、在籍校経由、巡回教育相談型（面談有）」

校　　種	小学校	対象児童・生徒等	4年生男子
相談経路	在籍校コーディネーターより連絡	受付時診断	PDD 診断あり
学校主訴	1. 対人関係トラブル 2. 家庭との連携についてどのようにすればよいか		
保護者主訴	・友人とのトラブルの解決をどうしたらよいか ・家庭での学習、家庭生活の中でどう対応したらよいかわからない		
内容と背景	・些細な思い違いによって友達とのトラブルが頻発し、本人の困り感が大変高い ・現在、仕事を持つ母親と二人暮らし（父親は単身赴任） ・母親は様々な相談機関に相談をしているが、今ひとつ納得できず、学校側への対応を強く迫っている		

③校内委員会の事例を相談支援に

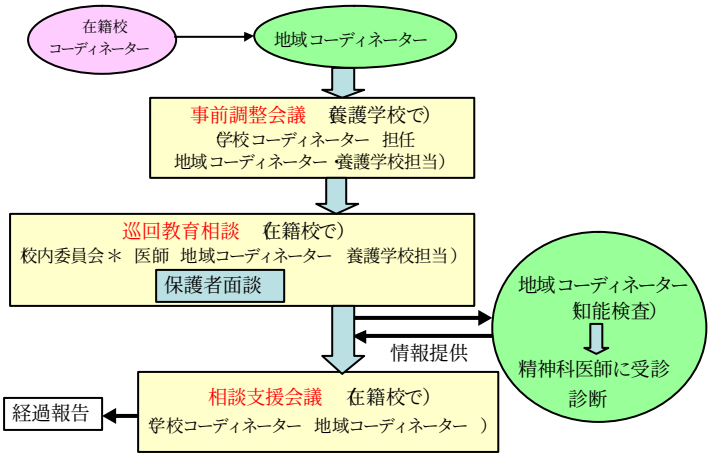


保護者が在籍校に、養護学校の巡回教育相談を受けてくれるように要請。在籍校の依頼に基づいて事前調整会議を実施し、アセスメント票を元に事例の検討を行い、巡回教育相談を行った。保護者の希望により面談を実施するとともに、保護者と学校との連携についての今後の方向を確認した。その後、事後調整会議を実施し、事例の改善が進んでいることを確認したが、保護者が家庭生活におけるアドバイスが欲しいという要望に応えて本校において面談を実施した。その後、家庭での問題は減少し、本人の困り感も低くなった。

地域コーディネーター経由、診断コーディネート型」

校　　種	中学校	対象児童・生徒等	1年生（男）
相談経路	地域コーディネーターより連絡	受付時診断	なし
学校主訴	1. 学習不適応、対人関係不適応 2. 教室に入りにくくなる状況の改善		
保護者主訴	・教室で授業を受けさせたい ・本人への対応方法がわからない		
内容と背景	・教室への入室困難により別室にて課題学習を行うことが多い ・友達の言動を自分への非難とうけとっての暴力やパニックが頻発 ・保護者は本人をどうとらえたらよいか戸惑っており、診断を希望		

④巡回教育相談で障害の診断を受けて

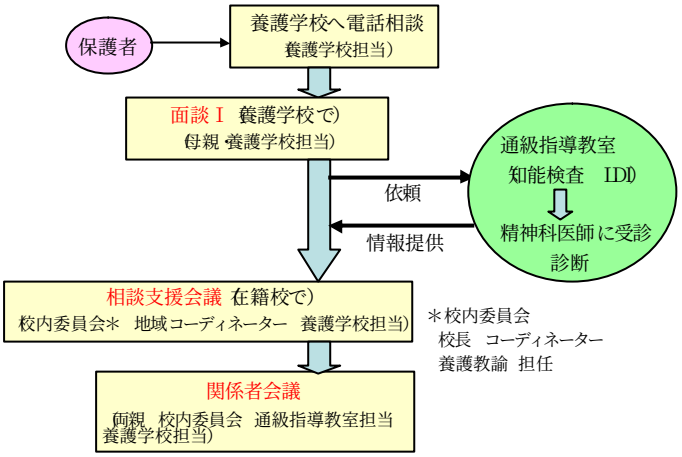


在籍校コーディネーターから地域コーディネーターに打診があり、アセスメント票を作成し、本校で事前調整会議を実施した。事前調整会議でアセスメント票を元に事例を検討し、巡回教育相談を実施し、保護者の希望により面談を行った。保護者は診断を希望し、後日地域コーディネーターが知能検査を実施し、保護者と本人が受診してその結果を元に、相談支援会議を実施した。それを通して、保護者は長年の不安が解消され、家庭での本人に対する対応を考え始めた。

保護者相談経由、関係者会議コーディネート型」

校　種	小学校	対象児童・生徒等	4年生女子
相談経路	保護者より電話相談	受付時診断	なし
学校主訴	1. 不登校の改善 2. 学習不適応、対人関係不適応		
保護者主訴	・不登校の改善 ・本人の行動や反応をどうとらえたらよいか		
内容と背景	・不登校 ・就学以前に両親は離婚 ・2歳頃より服や持ち物にこだわりがあり、納得するまでパニック有り		

⑤保護者も含んで関係者会議を設置して



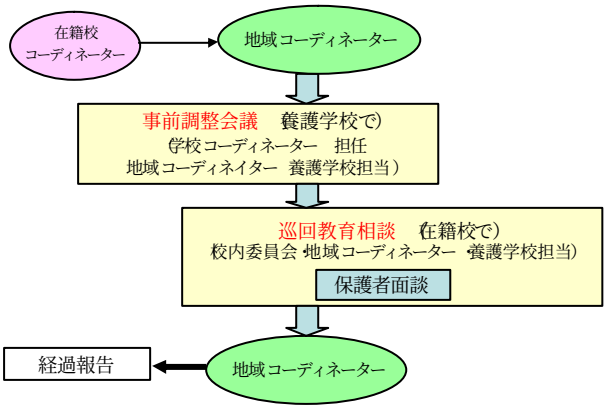
電話相談で、保護者が在籍校との連携を望まなかった。面談において検査、診断を希望されたので、本校にて手配し、合わせて在籍校との連携についての必要性を説明し、面談後在籍校に経緯を連絡し、相談支援会議を行い、両親を含んだ相談支援会議を実施し、現状の確認と今後の対応について検討した。

その後、校内体制が整備され、一致して改善に向かって取り組まれている。

在籍校経由、巡回教育相談型（面談有）」

校　種	中学校	対象児童・生徒等	1年生（男）
相談経路	地域コーディネーターより連絡	受付時診断	ADHD 診断
学校主訴	1. 対人関係不適応 2. 教室に入りにくくなる状況の改善		
保護者主訴	・教室で授業を受けさせたい ・投薬もしているが、本人への対応方法がわからない		
内容と背景	・教室への入室困難により別室にて課題学習を行うことが多い。学力は高い ・友達の言動を自分への非難とうけとっての暴力やパニックが頻発		

⑥地域コーディネーターが中心となって



在籍校コーディネーターから地域コーディネーターに打診があり、アセスメント票を作成し、本校で事前調整会議を実施した。事前調整会議でアセスメント票を元に事例を検討し、巡回教育相談を実施し、保護者の希望により面談を行った。その結果、別室での課題学習は定着した。今後指導をどのようにすすめていくのかは、地域コーディネーターがフォローし、経過報告を受けることとした。